

## 式 辞

穏やかな陽光があふれ、桜花爛漫の春となりました。

本日ここに平成 27 年度相愛中学校、高等学校入学式を挙げていただきましたところ、本願寺より藤野総務様、津村別院より木下輪番様をはじめ、同窓会ならびに各会の会長さまの御臨席を賜り、理事長、学園長ともどもに有難く感謝をいたしております。

中学校新入生 46 名  
高等学校新入生 141 名の皆様

相愛学園にご入学、おめでとうございます。

合わせてご列席をくださいました保護者のみなさま、お嬢様のご入学を心からお祝い申し上げます。ご立派に成長され、本年度から新しく制定されました制服に身を包み、この入学式をお迎えになられましたこと、お慶びもひとしおのことと拝察いたします

私の式辞は、本校の建学の精神が根ざしている仏教的な考え方、加えて本日から始まる 3 年間、6 年間の学園生活において何を大切にすべきか、わかりやすい例を用いてお話ししようと思えます。

まず一つ目は『校門一礼』です。

入試の時、これまで通っていた小学校や中学校には見られない立て札が校門に立てられていて驚かされたり、不思議に写ったかもしれませんね。私たちの学園は挨拶を重視いたします。人間同士が支え合うことで営まれる社会、その一員として、また家族の一員として互いに挨拶を交わす事は礼儀であり、円滑な関係を築くうえで大事な役目を担っています。人だけではありません。相愛中学校高等学校の敷地は仏様のお住まいであります。登下校に際し一度歩みを止め、一礼いたしましょう。朝は「おはようございます。今日の私をどうか見ていてくださいね仏さま」「さようなら、一日自分を磨くことができました。ありがとうございます」の気持ちを込めていただけると嬉しいですね。お隣の津村別院ご参拝の折にも、山門にて一礼をお願いいたします。

二つ目は「施し（布施）」と言う行為です。さし上げるものやお金など持ち合わせてはおりません、と断らないでください。

一つ、私の手を、私の力をお貸ししましょう。お荷物をお持ちしましょう。

二つ、相手を思い遣る心を表しましょう。お身体、大丈夫ですか？

三つ、やさしい眼差しを相手に向けましょう。

四つ、柔和な笑顔を絶やさないでいましょう。

五つ、温かい言葉をかけましょう。

六つ、自分の座っている席を譲りましょう。

どうです。通学途上にできること、日常生活の中でできること、何もさしあげるものがないと思っていた私に、こんなにたくさんできることがありますよね。今述べた六つに加え、一夜の宿を旅人にお貸しすることを数えて七つの施しと呼びます。さらに言えば「私が施したんだぞ！誰々に対してした！こんなことをした！」の三つともすっかり忘れてしまうことを仏教徒の最上の施しと呼ぶこともつけ加えておきましょう。

三つ目に勉学とクラブ活動です。

先に述べました「校門一礼」や「布施」が心の栄養だとすれば、この三つ目は頭や身体に摂取する栄養分です。説明するまでもなく、中学高校の 3 年間 6 年間は青春のまっただ中、子供から大人への大切な過渡期であります。高い目標を掲げ、勉学やクラブ活動に汗を流してください。私たち教職員も協力を惜しまないことをお約束いたします。

この 3 年、6 年の間に学園生活の中で築かれる友との友情ほど生涯の宝物になるものはありません。怠けることもなく努力してください。

以上をもって式辞といたします。

ご入学おめでとうございます。

平成 27 年 4 月 5 日  
学校長 安井大悟